



## 「やさしい思いが やさしい行為になるとき」

～平成 29 年度 2 学期スタートに寄せて～

校長 島野 歩

いよいよ 2 学期のスタート！ 子どもたちが元気いっぱいの笑顔で、始業式に顔を見せてくれたこと、何よりの喜びです。長い夏休みを経てさまざまな思いや経験を積んできた子どもたちの顔がたくましく頼もしく見えました。



夏休み中、地域の方から、心に灯をともしような温かいお手紙をいただきました。

池上線の駅でのことです。

二十年ぶりに日本に帰国し、不慣れな環境の中で、ベビーカーを押していた私を助けてくださった貴校の男子児童さんがいらっしゃいました。

エレベーターのボタンを押して下さり、ご自身は階段を使って、先にエレベーターの出口で待っていてくださいました。

お名前をうかがう機会はありませんでしたがお礼を申し上げました際に、「文教大学附属小学校です」と元気に挨拶してくださいました。

環境が変わり、心が折れそうなこともございましたが、そんなときに、この男子児童さんのご親切が、どれほど心温まる出来事だったか、ご想像いただければと存じます。

本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

お手紙を読み終えたとき、涙があふれそうになりました。優しい思いを優しい行為として表出した男子児童をしっかり受け止めてくれる方がいらっしゃることに、感銘するとともに、その児童を心から誇りに思いました。

子どもはもちろんですが大人である私たちも、一人では生きていくことはできません。社会の中で出会う様々な人々とのかかわりの中で互いに助け合い、支えあいながら生きています。そして「思いやり」という温かい心に包まれて日々を生活しているのだろうと思います。

行事の多い 2 学期！ 多くのかかわりの中で、子どもたちの優しい心を さらに育んでまいります。  
今学期もご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。



## ◆オーストラリア国際交流(7月22日～7月29日)◆

### ～留学中の子どもたちの日記から～

今年度は、22人の子どもたちの「第3期 オーストラリア短期留学」に参加しました。ここでは、8日間の留学において、ノースレイクスのお友達と、そしてホストファミリーと過ごしたラストテイの子どもたちの日記の一部をご紹介します。ご家族の皆様、そして渡航に至るまでにたくさんのサポートをしてくださいましたオーストラリア大使館 及び クラブオーストラリア等の諸機関の皆様への感謝の気持ちとさせていただきます。

(8日間の教員との交換日記！日記には子どもたちの気持ちの機微が記されています。喜び、楽しさ、戸惑い、寂しさ、いろいろな経験を重ねて、この8日間でぐっと頼もしくなった子どもたち！言葉や文化の壁を越え、オーストラリアの方たちとの絆を深めてきました。)

以下は日記の抜粋です。

◆最後に学校でお友達と離れるのがとても寂しかったです。けれど、みんなとまた会えるのが楽しみです。来年もお友達と遊びたいです。来年も絶対に行きたいと思います。

◆ホストファミリーと最後の夜を過ごしました。私はあと1日でもいいので増やしてほしいと思いました。ですが、ママに会いたい自分とあと1日という自分に分かれていきます。久しぶりにママに会う！！楽しみです。でも少し悲しいです。8日間楽しかったです。

◆学校で面白い実験をしました。それは、キャンティに棒をさす実験です。でも残念ながら、(英語なので)何をしているのかよくはわかりませんでした。でも面白かったです。文教ソーランは、少し緊張しましたがうまくできてよかったです。

◆今日は最後の学校でした。とても楽しかったです。そして、うれしかったです。なぜなら、わたしたちが自己紹介した後、オーストラリアの友達が「オッケー！上手だったよ。」などとほめてくれたからです。また、ソーラン節が終わったら、最後に、ハイタッチやハグなどをしてくれて、とてもうれしかったです。

◆はじめての授業では、ちんぷんかんぷんでわからなかった英語が少しだけわかるようになってきました。ホストファミリーの人も、やさしいわかりやすい英語でゆっくり話してくれるので、はじめの日より何を伝えようとしているのか わかるようになってきました。英語が少しわかるようになってきたので、もっとオーストラリアにいたいです。あと1日でもいいから、いたいです。また絶対に来年来ます。

子どもたちの頑張り、心からの拍手を贈ります。

